

メールを届けるSMTPサービス

SMTPは相手のサーバーにデータを送る

メールサービスとは、ネットワークを利用してテキストデータやファイルなどのメールデータをやり取りするネットワークサービスです。企業ネットワーク内だけで独自の仕組みを用いて提供するケースもありますが、一般的には、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) とPOP3 (Post Office Protocol Version 3) やIMAP (Internet Message Access Protocol) を使うメールサービスを指します。メールサービスを提供するには、SMTPサーバーと、POP3サーバーやIMAPサーバーが必要です。両方を1台の**メールサーバー**としてまかなうことも可能です。ここでは、SMTPの働きを見てみましょう。

SMTPサーバーの役割は、メールデータを宛先ユーザーのSMTPサーバーに届けることです。ユーザーは、メールソフトで利用するSMTPサーバーをあらかじめ設定しておきます。メールを送信すると、まずはその自身が設定したSMTPサーバーにメールデータが送られます。

データを受け取った送信元のSMTPサーバーは、宛先メールアドレスの「@」の後ろにある**ドメイン名**を見て、宛先のSMTPサーバーを判断し、データを送ります。データを受け取った宛先のSMTPサーバーは、宛先メールアドレスの「@」の前の部分 (**アカウント名**) を見ます。SMTPサーバーにはあらかじめアカウント名が登録されており、アカウント名ごとに、メールデータを保管する「**メールボックス**」が用意されています。宛先SMTPサーバーは宛先メールアドレスのアカウント名を見て、該当するメールボックスにメールデータを保存します。

これで、メールデータが宛先SMTPサーバーに届きました。メールボックスから宛先ユーザーがメールを受け取るまでは、112ページで解説するPOP3サーバーやIMAPサーバーが担当します。

メールがメールボックスに届くまで

